

# 社会福祉法人間の連携 交換研修から得たもの

社会福祉法人 依田窪福祉会

住所／TEL	長野県上田市下武石776-1 / 0268-85-2202	
URL／E-mail	http://www.janis.or.jp/users/tmoshibi/ /	
経営理念	<b>法人の理念</b> 地域の方々の安心・安全な自立生活の支援 <b>行動方針</b> ゆっくり いっしょ わがまま	
事業内容	社会福祉事業 特別養護老人ホーム（60名） 1か所 認知症対応型共同生活介護（8名） 1か所 小規模多機能型居宅介護事業（25人） 1か所 訪問介護事業 1か所 デイサービスセンター （25名、10名、3名） 6か所 公益事業 居宅介護支援事業 1か所 配食サービス 2か所	
収入 （法人全体） 平成24年度決算	①社会福祉事業	562,351,705円
	②公益事業	72,699,491円
	③収益事業	円
	合 計	635,051,196円
従業員数 （法人全体）	136名（非常勤含む）	
当面する 経営課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間管理職の育成</li> <li>・ リーダー層の育成</li> <li>・ 募集をしても応募がなかなかこないのので、役割を明確にした業務の改善や効率化を考えていく</li> <li>・ 職員の能力が発揮できる体制づくり</li> </ul>	

<p><b>取組みに着手した理由、背景</b></p>	<p>平成24年4月に依田窪特別養護老人ホームでは、施設長、相談員、ユニットリーダーが変わり、新しい体制でのスタートとなった。</p> <p>自分たちで、新しい施設を創りあげていかなければならないという思いはあったが、どのようにしたらよいか悩み、なかなか変えられずにいた。</p> <p>半年が過ぎた頃、ISO内部監査交流で他法人の方が来所されることがあり、「以前来られた時は施設の飾り付けなどができていたが、今はできていない。」という指摘をいただき、お年寄りにとって飾りも何もない施設になってしまったと気付かされた。</p> <p>懇親会の場で、「うちへ1ヶ月ぐらい来たら」という一声で、その場で長野県から千葉県の方への内部交流は決定された。</p> <p>会議のあり方や、決定までの流れを他法人方はどのように行っているのかを学ぶため、また自分自身のスキルアップ、そしてサービスの質の向上を目的とし、1ヶ月間の法人間交流に取り組んだ。</p>
<p><b>取組みの現時点での効果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議のあり方を再検討し、フロー図にして、分かり易くした。</li> <li>・ ヒヤリハットの様式を変更し、簡単に書けるようにしたので、細かい事例まで情報が上がってくるようになった。</li> <li>・ 自分自身でどのように取り組んでいくか、PDCAを使って、計画から評価を行っているので、毎月を振り返ることができている。</li> <li>・ 介護職が行っていた、業務の振り分けをして役割を明確にしたので、寄り添える時間が増えている。</li> <li>・ 笑顔大賞の表彰をするようにし、職員のやる気を引き出すような取り組みをした。</li> <li>・ 地域の昔の写真を飾るなど、少しずつ飾りつけができており、施設のお年寄りも昔を思い出している。</li> </ul>

住所／TEL	千葉県木更津市井尻951番地他 / 0438-97-2721	
URL／E-mail	www.nakago.or.jp /	
経営理念	我々の志『この人の笑顔の為に』	
事業内容	<p>(1) 高齢者事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム (104名) 1 場所</li> <li>・ 短期入所生活介護事業 (32名) 1 場所</li> <li>・ ティサービスセンター (30名) 1 場所</li> <li>・ 介護相談センター 2 場所</li> <li>・ ヘルパーステーション 2 場所</li> <li>・ ケアハウス (30人) 1 場所</li> <li>・ サテライト事業所 2 場所</li> </ul> <p>(通所、訪問、短期入所、有料老人ホーム、ナイトステイ事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「木更津市北部地域包括支援センター」木更津市より業務受託</li> </ul> <p>(2) 障害事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者支援施設 (知的障害者) 1 場所</li> <li>・ 短期入所事業</li> <li>・ 生活介護</li> <li>・ 日中一時支援事業</li> <li>・ 就労移行支援事業</li> <li>・ ケアホーム 3 場所</li> <li>・ 木更津市指定相談支援事業</li> </ul> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木更津市中郷簡易郵便局運営事業 1 場所</li> </ul>	
収入 (法人全体) 平成24年度決算	①社会福祉事業 ②公益事業 ③収益事業 合 計	1,300百万円 30百万円 18百万円 1,348百万円
従業員数 (法人全体)	288名 (非常勤含む)	
当面する 経営課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社風を良くする (人間力向上)</li> <li>・ PDCAサイクルの実践向上</li> <li>・ 災害対策 (地域との連携)</li> <li>・ 中堅職員人材育成・職員人材確保・職員定着率の向上・キャリアパスの構築</li> <li>・ 障害者雇用</li> <li>・ 利用率の向上</li> </ul>	

<p><b>取組みに着手した理由、背景</b></p>	<p>交換研修の実施背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きっかけは1年以上前のISO内部監査交流事業・懇親会会場での思いつきから。</li> <li>・法人間の話合いで、依田窪福祉会ともしびの副施設長が勉強の機会として、千葉県 の広域福祉事業会に1ヶ月間滞在して現場に入るようになった。</li> <li>・問題意識としては、遠く離れた"異国の地"で、決断力、実行力を養う修行すること。</li> <li>・その上で、相談員と現場との連携、理念に沿った介護とは、職員教育、ISOの活用方法等具体的な課題を持って修行に挑んだ。</li> <li>・当初は行く側が勉強する機会とだけとらえていたが、受入側理事長の発案により、研修期間中での気付きから受入側施設へ改善提案を実施することになった。</li> </ul>
<p><b>取組みの現時点での効果</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現時点での効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月間の千葉県滞在後、長野の自法人へ戻り、施設の改善、サービスの質の向上に結び付ける事が出来た。</li> <li>・受入側施設においても同業他社の視点から具体的な指摘を受け改善に結びつけることができた。</li> <li>・交換研修を振り返り、1人が来ただけの交流ではなく、法人間の結びつきが強くなるアイテムの一つであることが分かった。</li> <li>・公共的使命があるから互いに協力出来る、社会福祉法人同士であるからこそできたこと。</li> <li>・単発の交流だけではなく、事業報告会への相互招へい、ISO相互交流等複数の交流1つ1つの積み上げが関係を深くすることが分かった。 ⇒社会福祉法人の強み</li> </ul> </li> <li>2. 今後の展望・課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングの実施</li> <li>・事業報告会、実践事例発表会への相互参加</li> <li>・交換研修の実施</li> <li>・交流事業の継続</li> <li>・震災対策</li> </ul> </li> </ol>

## 社会福祉法人間の連携

### ～交換研修から得たもの～

社会福祉法人依田窪福祉会 今井圭輔

社会福祉法人広域福祉事業会 鈴木大作

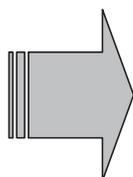
1

## ISO内部監査交流事業から交換研修へ

●平成24年度ISO内部監査交流事業実施の際に両法人より、職員を派遣(交換)させて研修を実施しようとの提案が挙がる。

⇒交換研修実施決定。(平成25年1月)

長野県  
依田窪福祉会



千葉県  
広域福祉事業会

交換研修職員派遣先

交換研修受入れ施設

2

## 交換研修の目的

- 研修実施者自身のスキルアップ  
「決断力」「行動力」が発揮できるようになる。
- 他法人の内容を知る
  - ・他法人のシステムや職員教育はどのように行われているか。
  - ・会議はどのように行われているか。
  - ・ISO9001の内部監査はどのようにされているか。

3

## 交換研修全体像

体験する・感じる



気付き・違いの発見



改善提案



さらなる改善提案

4

## 受入れ施設側への改善提案

- 改善提案書項目 15件
  - 特別養護老人ホーム個室ユニット型 7件
  - 特別養護老人ホーム多床室型 8件
- 改善提案からの取り組み
  - サブスタッフ(介護補助職員)の雇用
  - 平成25年度事業計画・PDCAサイクルへ
  - 利用者体験の実施

5

## 交換研修を通して感じたこと 自法人が弱かった部分

- 他法人は職員一人一人が主体的に動いている。積極性がある。
    - 自法人は上司に頼ってしまっている部分があり、誰かがやってくれると思っていた。
    - 考えることが少ない。
- ⇒ 足りなかった部分が明確になった。  
PDCAサイクル、施設の飾り付け

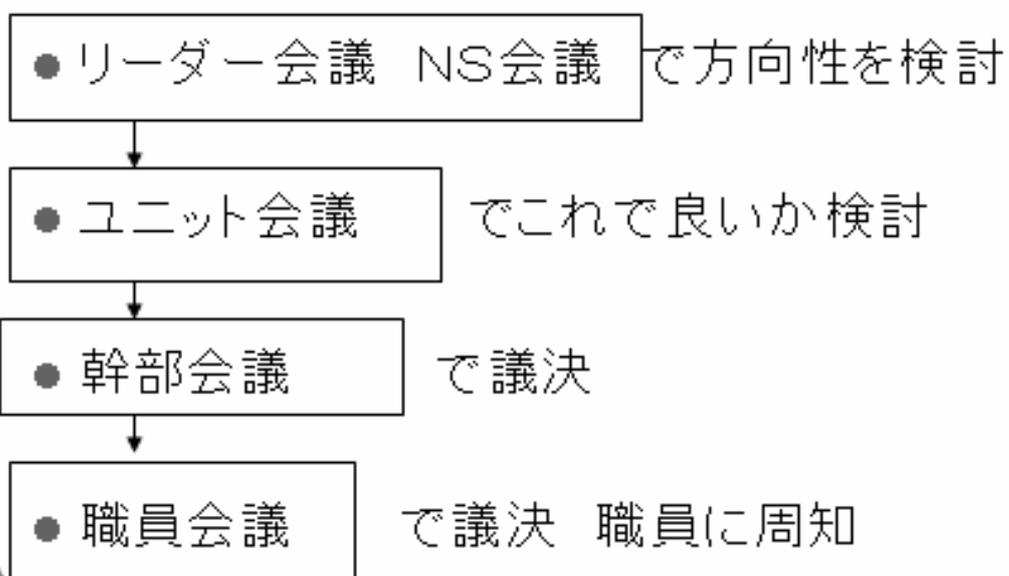
6

## 交換研修終了後の依田窪福祉会の取り組み

- 会議について
  - 事業所によっては、議案があまりなく会議が報告となっていた為、もう一度会議のあり方について考えた。
- 普段の仕事内容の見なおし
  - 事故報告書の書き方や、事故としての判断基準に曖昧な部分があり、統一されていなかった為、再度確認を行った。

7

## 事業所の会議のあり方



## これまでの成果

- 洗濯物配り、ショートの荷物チェックについて今まで介護職が行っていたが介助員に依頼した。  
⇒介護職の役割を明確にした。
- ヒヤリハットの書式を変更  
小さく書きやすいようにした。⇒すぐに書ける。  
細かい情報も上ってくるようになった。
- 施設の飾り付けをした  
施設が温かく感じることができる。  
自分たちで行うという主体性を持つ様になった。

9

## 研修を通しての気付き

- PDCAの前にSDCAができていない。
- ケアに関しても・・・(ひげそりや、口腔ケアについても、誰がいつやるのか、あたり前だからマニュアルが無かった。しかし現状はできていない。
- 当たり前にやらなければいけないことが、できていなく、また当たり前にやることの難しさを感じた。

10

## サービスの質の向上について

- 当たり前に行う手順書(マニュアル)の策定と定期的な見直し、職員参加の下での改善の取り組み。
- 標準を決める(そのためのISOでもあるのではないか。)
- 法人本部の事業計画で5Sについて取り入れる。
- 今回の研修は、外部評価の一部となるが、率先して第三者評価の受審などもサービスの向上に繋がる。

11

## まとめ

- 第三者評価やISO9001を受審していても、うまく活用しなければ、ただ受けているだけである。
- 今の自法人に必要なのは、すべては基本から、もう一度原点に戻り...  
当たりまえのことをできるようにする。

12

## その後の依田窪福祉社会の掲示板



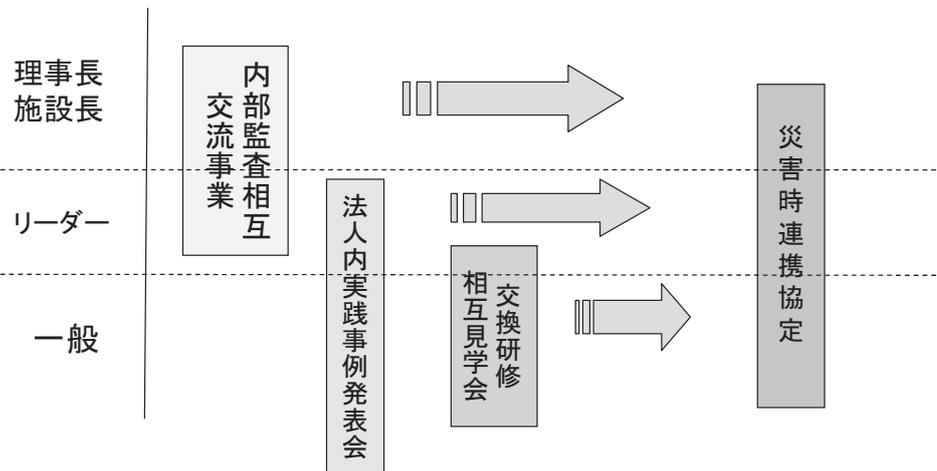
## 比較対象を持つ

- 良い悪いではなく、今の立ち位置の確認
- インスピレーションからアレンジへ



## 階層別交流

### ●階層別顔の見える関係



15

## 法人間の展望 ・ 課題

- モニタリングの実施
- 事業報告会、実践事例発表会への参加
- 交換研修の実施
- 交流事業の継続
- 震災対策



16

## 社会福祉法人のイメージ(短所)

- 単体での社会福祉法人のイメージ
  - 行政がOKすれば安心 ⇒ 内向き
  - 競争なし
  - 自分たちだけ見ている生活できる

17

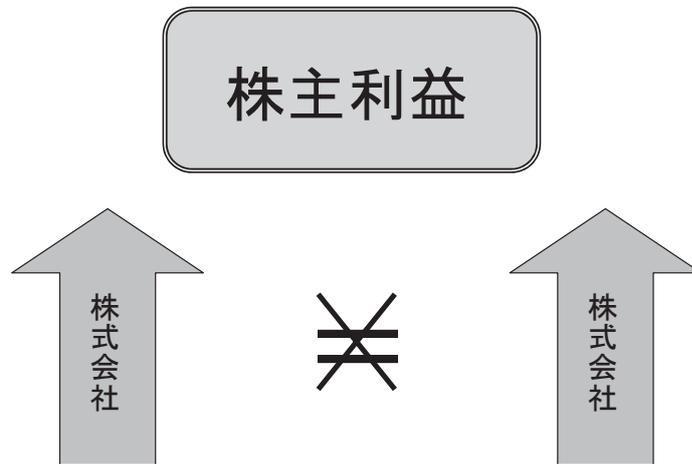
## 社会福祉法人としての強み(長所)

- 公的・公共的・使命感
- 安心ネットワーク

18

## 株式会社との比較

- 株式会社の場合



19

## 株式会社との比較

- 社会福祉法人の場合



20

## 社会福祉法人への提言

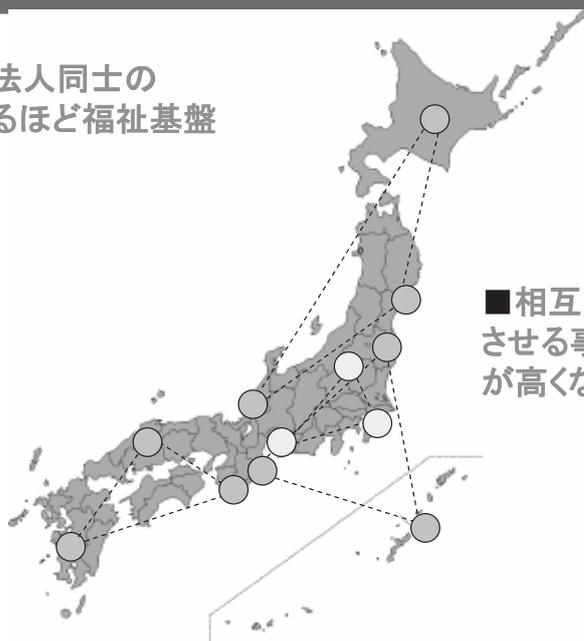
- 社会福祉法人自身が行う自主性が大事
- 自助努力で実施できる
- 国が作るのではなく自分たちが作る

⇒ 社会福祉法人の存在意義

21

## 法人間ネットワーク

■ 社会福祉法人同士の  
網目が出来るほど福祉基盤  
が強くなる



■ 相互に気付き、質を向上  
させる事でセーフティーネット  
が高くなる

22

## 万灯照国

- 一法人 一灯照隅
- 日本全国 万灯照国
- 福祉の網目が強固となる

